時代（いま）を写す辞書。ことばを楽しむ辞書。

三省堂国語辞典

第八版

見坊豪紀
市川孝
飛田良文
山崎誠
飯間浩明
塩田雄大
編

「三国（サンコク）」8年ぶりの全面改訂！

総収録項目数 84,000！

ウェブ検索だけでは得られない、価値ある情報が満載！

- 1,760頁
- 2色刷

普通版 B6判
定価 3,300円
（本体3,000円+税10%）

小型版 A6変型判
定価 3,080円
（本体2,800円+税10%）

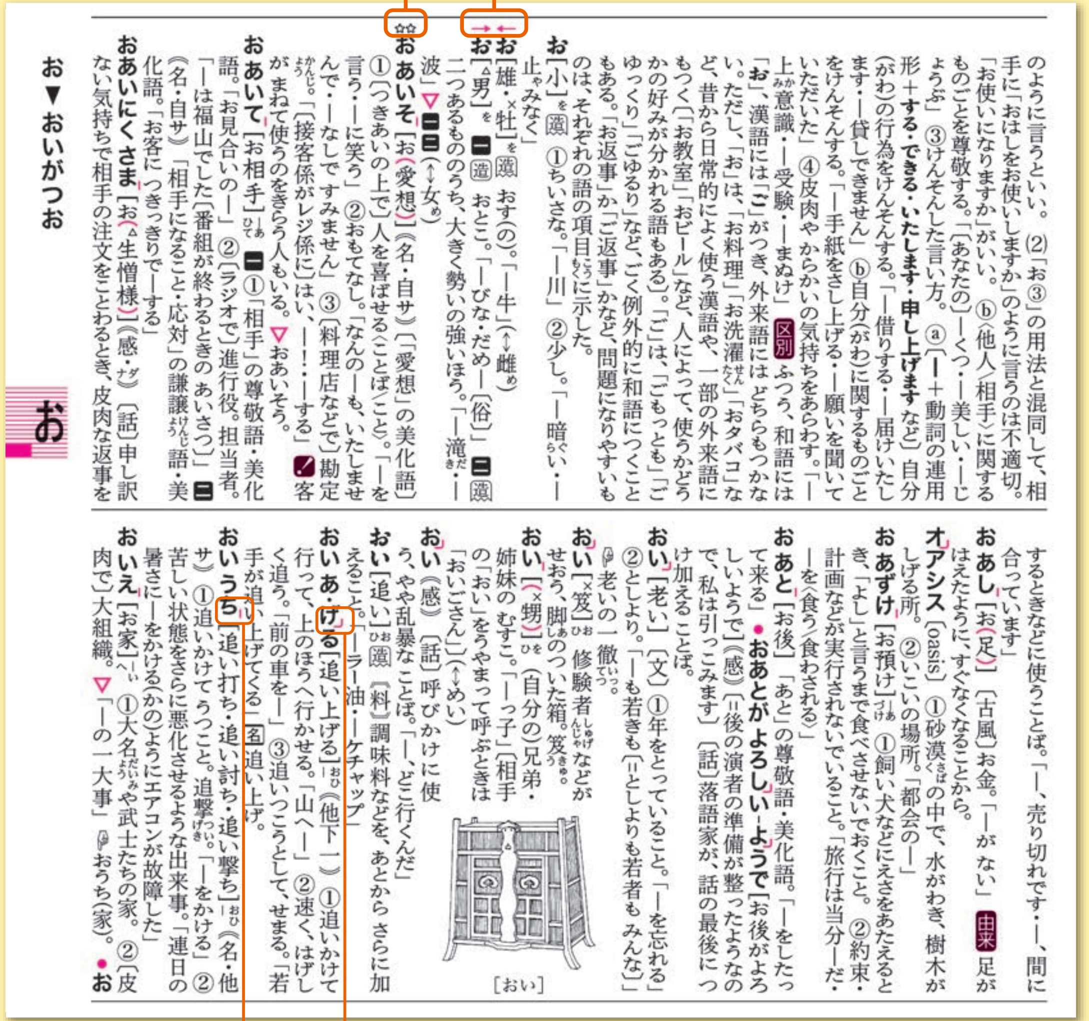
三省堂

NEW！ 特色7

見やすく分かりやすい紙面、直感的な記号でアクセントを表示

社会常識語
社会常識語には、☆☆をつけました。

書き分け注意
意味の上でまぎらわしい同音語には、→←をつけました。



のように言うといい。(2)「お③」の用法と混同して、相手に「おはしをお使いしますか」のように言うのは不適切。「お使いになりますか」がいい。ⓑ〈他人/相手〉に関するものごとを尊敬する。「〔あなたの〕―くつ・―美しい・―じょうぶ」③けんそんした言い方。ⓐ〔―＋動詞の連用形＋する・できる・いたします・申し上げます など〕自分（がわ）の行為をけんそんする。「―借りする・―届けいたします・―貸しできません」ⓑ自分（がわ）に関するものごとをけんそんする。「―手紙をさし上げる・―願いを聞いていただいた」④皮肉やからかいの気持ちをあらわす。「―上（かみ）意識・―受験・―まぬけ」区別 ふつう、和語には「お」、漢語には「ご」がつき、外来語にはどちらもつかない。ただし、「お」は、「お料理」「お洗濯（せんたく）」「おタバコ」など、昔から日常的によく使う漢語や、一部の外来語にもつく〔「お教室」「おビール」など、人によって、使うかどうかの好みが分かれる語もある〕。「ご」は、「ごもっとも」「ごゆっくり」「ごゆるり」など、ごく例外的に和語につくこともある。「お返事」か「ご返事」かなど、問題になりやすいものは、それぞれの語の項目（こうもく）に示した。

お〔小〕を 造 ①ちいさな。「―川」②少し。「―暗（ぐら）い・―止（や）みなく」

→← **お**〔雄・×牡〕を 造 おす（の）。「―牛」（↔雌（め））

お〔△男〕を 一 造 おとこ。「―びな・だめ―（俗）」 二 造 二つあるもののうち、大きく勢いの強いほう。「―滝（だき）・―波」▽一二（↔女（め））

☆☆ **おあいそ**┘〔お（愛想）〕《名・自サ》〔「愛想」の美化語〕①〔つきあいの上で〕人を喜ばせる〈ことば/こと〉。「―を言う・―に笑う」②おもてなし。「なんの―も、いたしませんで・―なしですみません」③〔料理店などで〕勘定（かんじょう）。「〔接客係がレジ係に〕はい、―！・―する」✎客がまねて使うのをきらう人もいる。▽おあいそう。

おあいて┘〔お相手〕―あひて 一 ①「相手」の尊敬語・美化語。「お見合いの―」②〔ラジオで〕進行役。担当者。「―は福山でした〔番組が終わるときのあいさつ〕」 二 《名・自サ》「相手になること・応対」の謙譲（けんじょう）語・美化語。「お客につききりで―する」

おあいにくさま┘〔お（△生憎様）〕《感・ダナ》〔話〕申し訳ない気持ちで相手の注文をことわるとき、皮肉な返事をするときなどに使うことば。「―、売り切れです・―、間に合っています」

おあし┘〔お（足）〕〔古風〕お金。「―がない」由来 足がはえたように、すぐなくなることから。

オ┘**アシス**〔oasis〕①砂漠（さばく）の中で、水がわき、樹木がしげる所。②いこいの場所。「都会の―」

おあずけ┘〔お預け〕―あづけ ①飼い犬などにえさをあたえるとき、「よし」と言うまで食べさせないでおくこと。②約束・計画などが実行されないでいること。「旅行は当分―だ・―を〈食う/食わされる〉」

おあと┘〔お後〕「あと」の尊敬語・美化語。「―をしたって来る」●**おあとがよろしい**┘**ようで**〔お後がよろしいようで〕《感》〔＝後の演者の準備が整ったようなので、私は引っこみます〕〔話〕落語家が、話の最後につけ加えることば。

おい┘〔老い〕〔文〕①年をとっていること。「―を忘れる」②としより。「―も若きも〔＝としよりも若者も みんな〕」☞老いの一徹（いってつ）。

お┘**い**〔×笈〕おひ 修験者（しゅげんじゃ）などがせおう、脚（あし）のついた箱。笈（きゅう）。

おい┘〔（×甥）〕ひを （自分の）兄弟・姉妹のむすこ。「―っ子」〔相手の「おい」をうやまって呼ぶときは「おいごさん」〕（↔めい）

［おい］

お┘**い**《感》〔話〕呼びかけに使う、やや乱暴なことば。「―、どこ行くんだ」

おい〔追い〕おひ 造 〔料〕調味料などを、あとからさらに加えること。「―ラー油・―ケチャップ」

おいあ・げ┘**る**〔追い上げる〕―おひ《他下一》①追いかけて行って、上のほうへ行かせる。「山へ―」②速く、はげしく追う。「前の車を―」③追いつこうとして、せまる。「若手が追い上げてくる」名 追い上げ。

おいうち┘〔追い打ち・追い討ち・追い撃ち〕―おひ《名・他サ》①追いかけてうつこと。追撃（ついげき）。「―をかける」②苦しい状態をさらに悪化させるような出来事。「連日の暑さに―をかける（かの）ようにエアコンが故障した」

おいえ┘〔お家〕―いへ ①大名（だいみょう）や武士たちの家。②〔皮肉で〕大組織。▽「―の一大事」☞おうち（家）。●お

お▼おいがつお

お

アクセント ┘は音が下がる位置を、|は音が下がるところがないことを表します。

ことばで写す時代（いま）

3,500の新語の数だけ、私たちの暮らしは変わりました。

第八版で新たに追加した項目の例

アウティング／赤信号みんなで渡ればこわくない／eスポーツ／犬笛／インフルエンサー／ウェビナー／エコバッグ／遠慮のかたまり／置きに行く／ガテン系／壁打ち／完コピ／完母／ギャン泣き／きょうイチ／キラキラネーム／香害／自分事／主語が大きい／素で／聖地巡礼／そうなんですね／ソーシャルディスタンス／ゾーンに入る／即完／ツーブロック／DMAT／ディストピア／デジタルトランスフォーメーション／テンプレ／どこでもドア／撮れ高／斜め上／鍋を振る／猫パンチ／バインミー／羽根付きギョーザ／腹落ち／ビャンビャン麺／秒で／ブースト／フレイル／別日／ベビーキープ／ヘルプマーク／棒人間／ホニャララ／ホンビノス貝／麻辣／身バレ／黙食／持ってる／夢落ち／リアタイ／ルッキズム／列格／連席／・・・他多数

ウェブでもご紹介しています

三省堂
◉本社　〒101-8371　東京都千代田区神田三崎町2-22-14　電話 03(3230)9411〈編集〉・9412〈営業〉
◉大阪支社　〒530-0002　大阪市北区曽根崎新地2-5-3　電話 06(6341)2177
◉九州支社　〒810-0012　福岡市中央区白金1-3-1　電話 092(531)1531

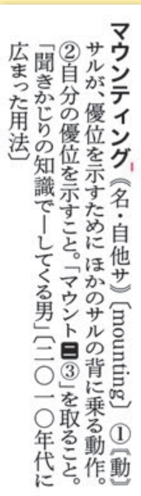
新しく生まれたリアルなことばを多数収録！

引いて納得の新機軸が満載！

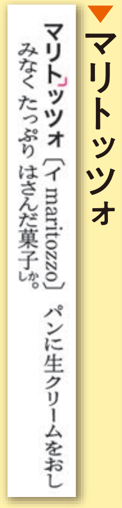
特色1 新語・新語義の追加

日常生活に仲間入りした三、五〇〇語を追加しました。新しく生まれた意味も記述。

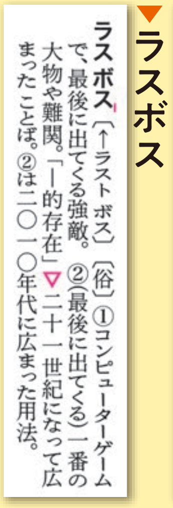
▼マウンティング


マウンティング《名・自他サ》〔mounting〕①《動》サルが、優位を示すためにほかのサルの背に乗る動作。②自分の優位を示すこと。「マウント【二】③」を取ること。「聞きかじりの知識で—してくる男」〔二〇一〇年代に広まった用法〕

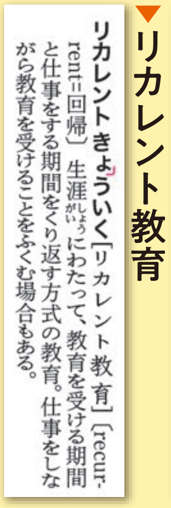
▼マリトッツォ


マリトッツォ〔イ maritozzo〕パンに生クリームをおしみなくたっぷりはさんだ菓子。

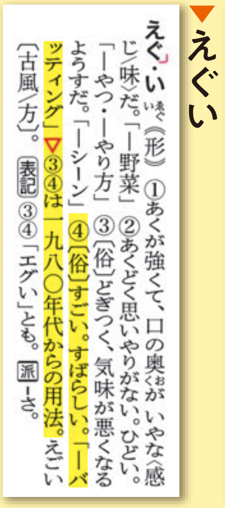
▼ラスボス


ラスボス〔↑ラストボス〕〔俗〕①コンピューターゲームで、最後に出てくる強敵。②(最後に出てくる)一番の大物や難関。「—的存在」▽二十一世紀になって広まったことば。②は二〇一〇年代に広まった用法。

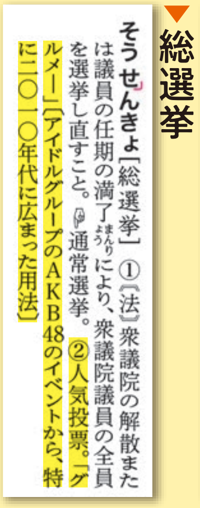
▼リカレント教育


リカレントきょういく〔リカレント教育〕〔recurrent=回帰〕生涯にわたって、教育を受ける期間と仕事をする期間をくり返す方式の教育。仕事をしながら教育を受けることをふくむ場合もある。

▼えぐい


えぐ・い《形》①あくが強くて、口の奥がいやな〈感じ/味〉だ。「—野菜」②あくどく思いやりがない。ひどい。「—やつ・—やり方」③〔俗〕どぎつく、気味が悪くなるようすだ。「—シーン」④〔俗〕すごい。すばらしい。「—バッティング」▽③④は一九八〇年代からの用法。えごい〔古風/方〕。【表記】③④「エグい」とも。【派】—さ。

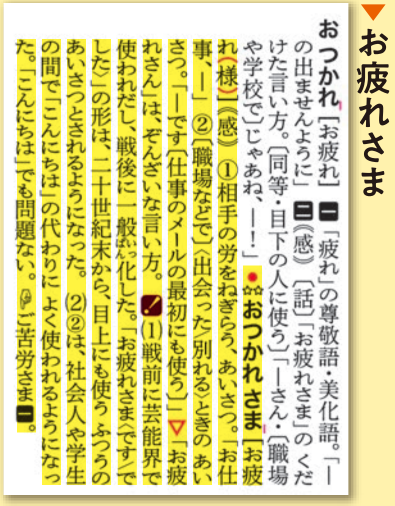
▼総選挙


そうせんきょ〔総選挙〕①《法》衆議院の解散または議員の任期の満了により、衆議院議員の全員を選挙し直すこと。☞通常選挙。②人気投票。「グループ—」〔アイドルグループのAKB48のイベントから、特に二〇一〇年代に広まった用法〕

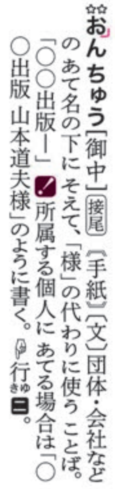
特色2 社会に出る高校生に必要な「社会常識語」

3,100語の社会常識語を選びました。知っておくと現代のさまざまな情報を正確に理解し、自分の考えを的確に表現することができます。

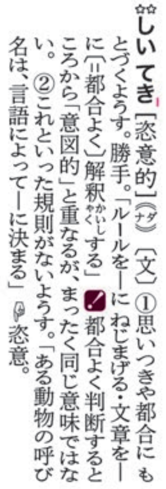
▼お疲れさま


おつかれ〔お疲れ〕【一】「疲れ」の尊敬語・美化語。「—の出ませんように」【二】《感》〔話〕「お疲れさま」のくだけた言い方。〔同等・目下の人に使う〕「—さん・〔職場や学校で〕じゃあね、—！」●☆☆**おつかれさま**〔お疲れ(様)〕《感》①相手の労をねぎらう、あいさつ。「お仕事、—」②〔職場などで〕〈出会った/別れる〉ときのあいさつ。「—です〔仕事のメールの最初にも使う〕」▽「お疲れさん」は、ぞんざいな言い方。！(1)戦前に芸能界で使われだし、戦後に一般化した。「お疲れさま〈です/でした〉」の形は、二十世紀末から、目上にも使うふつうのあいさつとされるようになった。(2)②は、社会人や学生の間で「こんにちは」の代わりによく使われるようになった。「こんにちは」でも問題ない。☞ご苦労さま【一】。

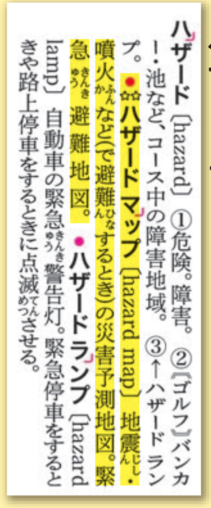
▼御中


☆☆**おんちゅう**〔御中〕【接尾】《手紙》〔文〕団体・会社などのあて名の下にそえて、「様」の代わりに使うことば。「○○出版—」！所属する個人にあてる場合は「○○出版 山本道夫様」のように書く。☞行き【二】。

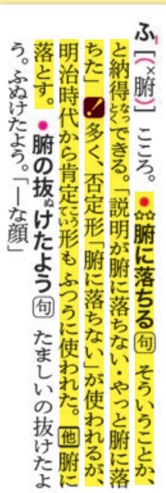
▼恣意的


☆☆**しいてき**〔恣意的〕《ナダ》〔文〕①思いつきや都合にもとづくようす。勝手。「ルールを—にねじまげる・文章を—に(=都合よく)解釈する」！都合よく判断するところから「意図的」と重なるが、まったく同じ意味ではない。②これといった規則がないようす。「ある動物の呼び名は、言語によって—に決まる」☞恣意。

▼ハザードマップ


ハザード〔hazard〕①危険。障害。②《ゴルフ》バンカー・池など、コース中の障害地域。③↑ハザードランプ。●☆☆**ハザードマップ**〔hazard map〕地震・噴火など(で避難するとき)の災害予測地図。緊急避難地図。●**ハザードランプ**〔hazard lamp〕自動車の緊急警告灯。緊急停車をするときや路上停車をするときに点滅させる。

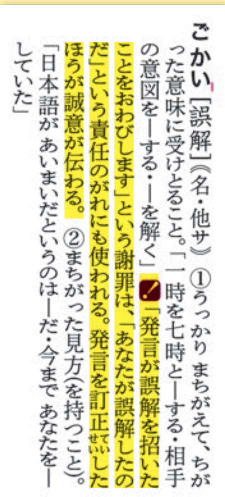
▼腑に落ちる


ふ〔(×腑)〕こころ。●☆☆**腑に落ちる**【句】そういうことか、と納得できる。「説明が腑に落ちない・やっと腑に落ちた」！多く、否定形「腑に落ちない」が使われるが、明治時代から肯定形もふつうに使われた。【他】腑に落とす。●**腑の抜けたよう**【句】たましいの抜けたよう。ふぬけたよう。「—な顔」

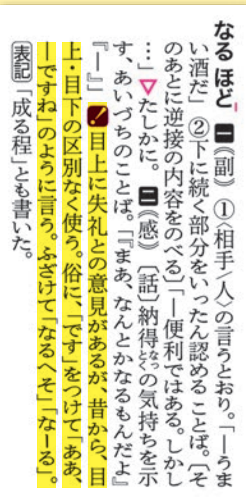
特色3 面白くてためになる豆知識［！］

そのことばを使う上で知っておくと役立つ情報です。コミュニケーションを円滑にするためのヒントや、独特な表現の理由などを説明しています。

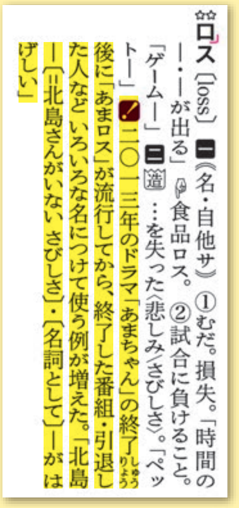
▼誤解


ごかい〔誤解〕《名・他サ》①うっかりまちがえて、ちがった意味に受けとること。「一時を七時と—する・相手の意図を—する・—を解く」！「発言が誤解を招いたことをおわびします」という謝罪は、「あなたが誤解したのだ」という責任のがれにも使われる。発言を訂正したほうが誠意が伝わる。②まちがった見方(を持つこと)。「日本語があいまいだというのは—だ・今まであなたを—していた」

▼なるほど


なるほど【一】《副》①〈相手/人〉の言うとおり。「—うまい酒だ」②下に続く部分をいったん認めることば。〔そのあとに逆接の内容をのべる〕「—便利ではある。しかし…」▽たしかに。【二】《感》〔話〕納得の気持ちを示す、あいづちのことば。「『まあ、なんとかなるもんだよ』『—』」！目上に失礼との意見があるが、昔から、目上・目下の区別なく使う。俗に、「です」をつけて「ああ、—ですね」のように言う。ふざけて「なるへそ」「なーる」。【表記】「成る程」とも書いた。

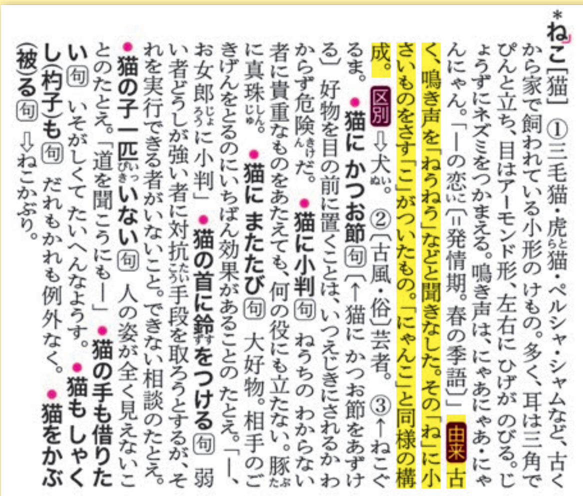
▼ロス


☆☆**ロス**〔loss〕【一】《名・自他サ》①むだ。損失。「時間の—・—が出る」☞食品ロス。②試合に負けること。「ゲーム—」【二】【造】…を失った〈悲しみ/さびしさ〉。「ペット—」！二〇一三年のドラマ「あまちゃん」の終了後に「あまロス」が流行してから、終了した番組・引退した人などいろいろな名につけて使う例が増えた。「北島—(=北島さんがいないさびしさ)・(名詞として)—がはげしい」

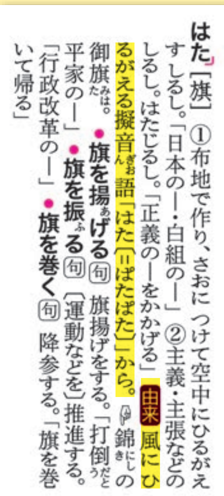
特色4 正しい語源が楽しく学べる［由来］

そのことばの由来を示しました。語源に関する俗説も正します。

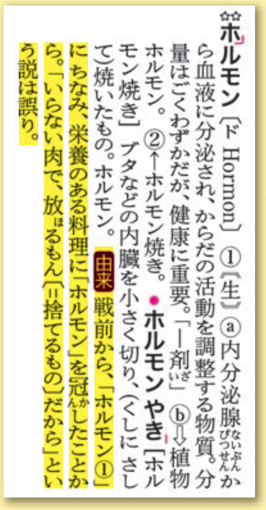
▼猫


＊**ねこ**〔猫〕①三毛猫・虎猫・ペルシャ・シャムなど、古くから家で飼われている小形のけもの。多く、耳は三角でぴんと立ち、目はアーモンド形、左右にひげがのびる。じょうずにネズミをつかまえる。鳴き声は、にゃあにゃあ・にゃんにゃん。「—の恋(=発情期。春の季語)」【由来】古く、鳴き声を「ねうねう」などと聞きなした。その「ね」に小さいものをさす「こ」がついたもの。「にゃんこ」と同様の構成。【区別】⇩犬。②〔古風・俗〕芸者。③↑ねこぐるま。●**猫にかつお節**【句】〔↑猫にかつお節をあずける〕好物を目の前に置くことは、いつえじきにされるかわからず危険だ。●**猫に小判**【句】ねうちのわからない者に貴重なものをあたえても、何の役にも立たない。豚に真珠。●**猫にまたたび**【句】大好物。相手のごきげんをとるのにいちばん効果があることのたとえ。「—、お女郎に小判」●**猫の首に鈴をつける**【句】弱い者どうしが強い者に対抗手段を取ろうとするが、それを実行できる者がいないこと。できない相談のたとえ。●**猫の子一匹いない**【句】人の姿が全く見えないことのたとえ。「道を聞こうにも—」●**猫の手も借りたい**【句】いそがしくてたいへんなようす。●**猫もしゃくし(杓子)も**【句】だれもかれも例外なく。●**猫をかぶ(被)る**【句】⇩ねこかぶり。

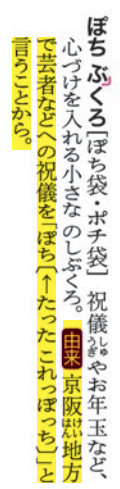
▼旗


はた〔旗〕①布地で作り、さおにつけて空中にひるがえすしるし。「日本の—・白組の—」②主義・主張などのしるし。はたじるし。「正義の—をかかげる」【由来】風にひるがえる擬音語「はた(=ぱたぱた)」から。☞錦の御旗。●**旗を揚げる**【句】旗揚げをする。「打倒平家の—」●**旗を振る**【句】(運動などを)推進する。「行政改革の—」●**旗を巻く**【句】降参する。「旗を巻いて帰る」

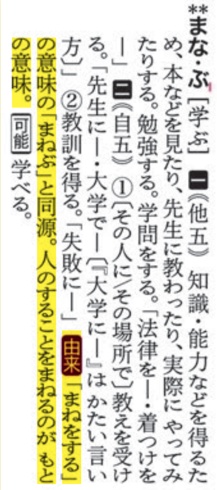
▼ホルモン焼き


☆☆**ホルモン**〔ド Hormon〕①《生》ⓐ内分泌腺から血液に分泌され、からだの活動を調整する物質。分量はごくわずかだが、健康に重要。「—剤」ⓑ⇩植物ホルモン。②↑ホルモン焼き。●**ホルモンやき**〔ホルモン焼き〕ブタなどの内臓を小さく切り、(くしにさして)焼いたもの。ホルモン。【由来】戦前から、「ホルモン①」にちなみ、栄養のある料理に「ホルモン」を冠したことから。「いらない肉で、放るもん(=捨てるもの)だから」という説は誤り。

▼ぽち袋


ぽちぶくろ〔ぽち袋・ポチ袋〕祝儀やお年玉など、心づけを入れる小さなのしぶくろ。【由来】京阪地方で芸者などへの祝儀を「ぽち(↑たったこれっぽっち)」と言うことから。

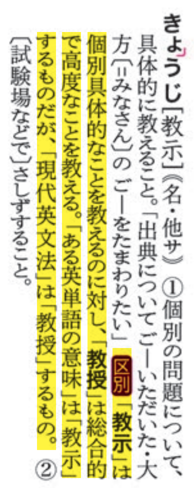
▼学ぶ


＊＊**まな・ぶ**〔学ぶ〕【一】《他五》知識・能力などを得るため、本などを見たり、先生に教わったり、実際にやってみたりする。勉強する。学問をする。「法律を—・着つけを—」【二】《自五》①(その人に/その場所で)教えを受ける。「先生に—・大学で—(『大学に—』はかたい言い方)」②教訓を得る。「失敗に—」【由来】「まねをする」の意味の「まねぶ」と同源。人のすることをまねるのがもとの意味。【可能】学べる。

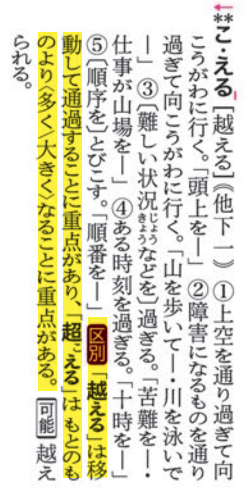
特色5 類語のニュアンスの違いが分かる［区別］

意味・用法の区別を知っておきたいことばを比較し、説明しています。

▼教示・教授


きょうじ〔教示〕《名・他サ》①個別の問題について、具体的に教えること。「出典についてご—いただいた・大方(=みなさん)のご—をたまわりたい」【区別】「教示」は個別具体的なことを教えるのに対し、「教授」は総合的で高度なことを教える。「ある英単語の意味」は「教示」するものだが、「現代英文法」は「教授」するもの。②〔試験場などで〕さしずすること。

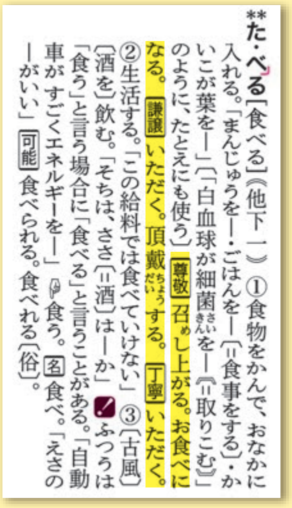
▼越える・超える


＊＊**こ・える**〔越える〕《他下一》①上空を通り過ぎて向こうがわに行く。「頭上を—」②障害になるものを通り過ぎて向こうがわに行く。「山を歩いて—・川を泳いで—」③〔難しい状況などを〕過ぎる。「苦難を—・仕事が山場を—」④ある時刻を過ぎる。「十時を—」⑤〔順序を〕とびこす。「順番を—」【区別】「越える」は移動して通過することに重点があり、「超える」はもとのものより〈多く/大きく〉なることに重点がある。【可能】越えられる。

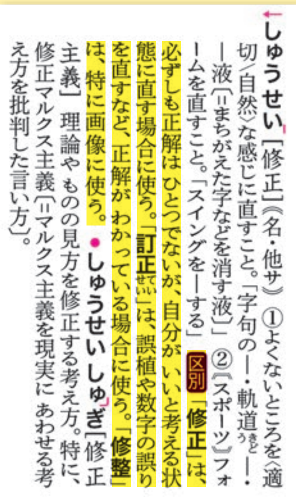
特色6 敬語の使い方が身につく［尊敬］［謙譲］［丁寧］

そのことばの尊敬語、謙譲語、丁寧語を示しています。

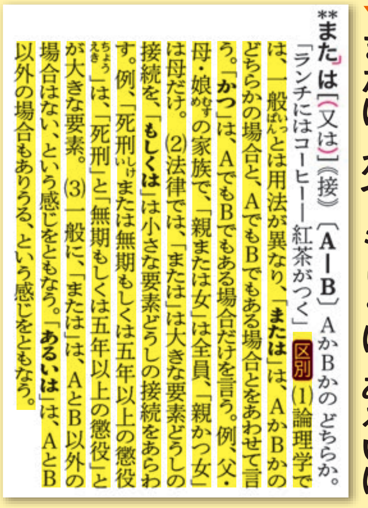
▼食べる


＊＊**た・べる**〔食べる〕《他下一》①食物をかんで、おなかに入れる。「まんじゅうを—・ごはんを—(=食事をする)・かいこが葉を—」(「白血球が細菌を—(=取りこむ)」のように、たとえにも使う)【尊敬】召し上がる。お食べになる。【謙譲】いただく。頂戴する。【丁寧】いただく。②生活する。「この給料では食べていけない」③〔古風〕(酒を)飲む。「そちは、ささ(=酒)は—か」！ふつうは「食う」と言う場合に「食べる」と言うことがある。「自動車がすごくエネルギーを—」☞食う。【名】食べ。「えさの—がいい」【可能】食べられる。食べれる〔俗〕。

▼修正・訂正・修整


しゅうせい〔修正〕《名・他サ》①よくないところを〈適切/自然〉な感じに直すこと。「字句の—・軌道—・—液(=まちがえた字などを消す液)」②《スポーツ》フォームを直すこと。「スイングを—する」【区別】「修正」は、必ずしも正解はひとつでないが、自分がいいと考える状態に直す場合に使う。「訂正」は、誤植や数字の誤りを直すなど、正解がわかっている場合に使う。「修整」は、特に画像に使う。●**しゅうせいしゅぎ**〔修正主義〕理論やものの見方を修正する考え方。特に、修正マルクス主義(=マルクス主義を現実にあわせる考え方を批判した言い方)。

▼または・かつ・もしくは・あるいは


＊＊**また・は**〔(又は)〕《接》〔A—B〕AかBかのどちらか。「ランチにはコーヒー—紅茶がつく」【区別】(1)論理学では、一般とは用法が異なり、「または」は、AかBかのどちらかの場合と、AでもBでもある場合とをあわせて言う。「かつ」は、AでもBでもある場合だけを言う。例、父・母・娘の家族で、「親または女」は全員、「親かつ女」は母だけ。(2)法律では、「または」は大きな要素どうしの接続を、「もしくは」は小さな要素どうしの接続をあらわす。例、「死刑または無期もしくは五年以上の懲役」は、「死刑」と「無期もしくは五年以上の懲役」が大きな要素。(3)一般に、「または」は、AとB以外の場合はない、という感じをともなう。「あるいは」は、AとB以外の場合もありうる、という感じをともなう。